

## ヨハネの手紙第一5章4-5節 「世に打ち勝つ信仰」

### 1A 神から生まれた者 4

#### 1B 信仰による新生

#### 2B 「世」なるもの

#### 3B 信じるということ

### 2A 信じる者 5

#### 1B 神の御子イエス

##### 1C 父のふところにおられる方

##### 2C 御父と御子の内にいる者

#### 2B 信じる者にある勝利

##### 1C 悪い者を打ち破る方

##### 2C 神のことばによる勝利

## 本文

ヨハネの手紙第一 5章を開いてください。私たちの学びは、5章3節まで来ましたが、 tonight は4節と5節を見ていきます。「<sup>4</sup> 神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。<sup>5</sup> 世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。」ヨハネは5章1節から、「神から生まれた」ということを語っています。「イエスがキリストであると信じる者はみな、神から生まれたのです。」と言っています。その神から生まれた者は、世にあって勝利しているという励ましを、ヨハネは読んでいる人々に送っています。この手前の節、3節では、「神の命令を守ること、それが、神を愛することです。神の命令は重荷とはなりません。」と言っていました。神の命令を守るとは、重荷とはならないと言われても、やはり、自分には神の命令を守れるのか？ そう感じた方々もおられたと思います。それで、あなたが神から生まれた、ということを再び繰り返すのです。神から生まれたということが、いかに力強いことか。それは世に打ち勝つ者にされたということでもあることを、ヨハネは教えています。

### 1A 神から生まれた者 4

#### 1B 信仰による新生

1節でヨハネが話しているとおりに、神から生まれるのは、イエスをキリストと信じているところから与えられます。ニコデモとの話を思い出してください。イエス様が、御霊によって新たに生まれなければいけないことを彼に教えられました。でもニコデモは、「どうして、そのようなことがあり得るのでしょうか。」と言うものだから、イエス様は、「あなたはイスラエルの教師なのに、そのことが分からないのですか。」と言われて、古のイスラエルの歩み、神との歩みを語られます。荒野を旅している時に、民が、水が飲みたい、マナは飽き飽きしたと言ったら、燃える蛇が送り込まれました。

人々が死んでいきます。彼らは主に罪を犯したと告白します。すると神はモーセに、青銅の蛇を造りなさいと命じられました。なぜ、そんなことを？とモーセは思ったかもしれない、いいや、主が命じられたことをそのまま行ったことでしょう。竿につけられた青銅の蛇を、見上げた者は生きました。

その出来事を取って、イエス様は、「ヨハ3:14-15 モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければなりません。それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。」と言われました、その竿につけられた青銅の蛇は、キリストを表していたのです。青銅は、神に裁かれることを聖書では表しています。蛇は悪魔、人を惑わして罪を犯させた張本人です。悪魔が木の上で裁かれたのであり、これはイエス様が木の上に付けられて、罪を背負われたことを意味します。この方を見上げる者、信じる者が永遠のいのちが与えられるのです。こうやって、信じる者は、神から生まれた者、神のいのち、永遠のいのちを持った者ということになります。

## 2B 「世」なるもの

<sup>4a</sup> 神から生まれた者はみな、世に勝つからです。

私たちは、世とは何であるかを、2章において読みました。「2:15-16 あなたは世も世にあるものも、愛してはいけません。もしだれかが世を愛しているなら、その人のうちに御父の愛はありません。16 すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢は、御父から出るものではなく、世から出るものだからです。」まず、世を愛せば、御父の愛はないと言っていますから、世は神に敵対している存在、反対している存在であることが分かります。次に、世にあるものというものは、肉の欲、目の欲、そして暮らし向きの自慢です。そして、世というものを、悪い者が支配していることを手紙の最後のところで書いています。「5:19 私たちは神に属していますが、世全体は悪い者の支配下にあることを、私たちは知っています。」この悪い者、悪魔が、世において人々に罪を犯させていることが3章8節に書かれています。「罪を犯している者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。」

ここから分かることは、この世において悪魔が支配していて、その悪魔が私たちに罪を犯すように誘い、そして私たちの肉や目、暮らしにおいて刺激を与え、そして私たちがその誘惑に屈すると、罪を犯す、ということになります。この世があり、悪魔がいて、そして私たちの肉があります。その三つ巴で私たち人間は罪を犯します。このどのうちの一つが欠けても、人は罪を犯さないでしょう。悪魔がいなければ、誘惑がなくなるわけですから、罪を犯しません。肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢が刺激されない世がなければ、罪を犯すこともありません。そして肉の欲に対して、私たちが打ち勝つならば、罪を犯すことはありません。

この世についてですが、ヨハネは2章17節で「世と世の欲は過ぎ去ります。」と言いました。世と言うものがどのような存在かを幻で示しているのが、黙示録17-18章です。同じヨハネが、主か

ら啓示を受けました。「黙 17:1-6 また、七つの鉢を持つ七人の御使いの一人が来て、私に語りかけた。「ここに来なさい。大水の上に座している大淫婦に対するさばきを見せましょう。2 地の王たちは、この女と淫らなことを行い、地に住む人々は、この女の淫行のぶどう酒に酔いました。」3 それから、御使いは私を御霊によって荒野へ連れて行った。私は、一人の女が緋色の獣に乗っているのを見た。その獣は神を冒瀆する名で満ちていて、七つの頭と十本の角を持っていた。4 その女は紫と緋色の衣をまとい、金と宝石と真珠で身を飾り、忌まわしいものと、自らの淫行の汚れで満ちた金の杯を手を持っていた。5 その額には、意味の秘められた名、「大バビロン、淫婦たちと地上の忌まわしいものの母」という名が記されていた。6 私は、この女が聖徒たちの血とイエスの証人たちの血に酔っているのを見た。私はこの女を見て、非常に驚いた。」

大淫婦として登場しています。大バビロンとありますが、バビロンは創世記 10 章、11 章で既に出てきているバベルから始まっています。神に対抗し町を建て、天に届き、自分たちの名をあげるための塔を建てようとして、神に阻まれました。そして、歴史の中でネブカドネツアルを王にする帝国として現れました。しかし、世の終わりにこのような形で、地の王たちと淫行を働いている女の姿で現れます。大水というのは、世界の国々のことを示しています。富が集まっています。権力が集まっています。そしてそれは、神からの祝福ではなく、むしろ神への反抗として集めたものです。獣は神への冒瀆で満ちていますね。そして、聖徒たちの血とイエスを証しする者たちの血に酔っている姿です。先ほど見た、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢が集約されているような姿です。そのような中で、聖く生きようとする者たちは迫害を受けます。イエス様を証しようとする者は迫害を受けます。ヨハネの時代には、ローマに生きているキリスト者はこの姿を見て、コロッセウムのようなパンとサーカスを思い出したかもしれません。パンはただで与えられ、サーカス、つまりエンターテイメントが与えられています。そこでは剣闘士の流血が楽しまれています。女の剣闘士は、着ているものがはだけます、性欲もあります。そして、そこに生きたライオンが放たれて、キリスト者が生きてまま喰い殺されるのを見て、ローマの者たちは楽しんで、喜んでいたのです。

黙示録 18 章では、それが一日の内に崩れ落ちる姿が描かれています。王たちが嘆き、商人たちが嘆き、船乗りたちが嘆き悲しみます。そして世の楽しみが過ぎ去るのです。19 章には天において大歓声があります。「19:1b-2 ハレルヤ。救いと栄光と力は私たちの神のもの。2 神のさばきは真実で正しいからである。神は、淫行で地を腐敗させた大淫婦をさばき、ご自分のしもべたちの血の報復を彼女にされた。」世と世の欲は過ぎ去るのです。それから 19 章の終わりに、世を支配していた獣、反キリストが地獄に投げ込まれる姿があり、そして 20 章の終わりに、千年間のキリストの支配の後に、底知れぬ所につながっていた悪魔が解き放たれ、そして地獄に投げ込まれる姿があります。悪い者も滅ぼされるのです。そうした勝利を見据えて、イエス様は、小アジアにある七つの教会に、「勝利を得る者」に対する約束をそれぞれ与えられました。それは以前、見て行ったとおりです。

### 3B 信じるということ

私たちは今、未だ世は滅びていないし、悪い者が支配している中で生きています。しかし、それでも勝利者として生きることが許されています。それが、「<sup>4b</sup> 私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。」とあるとおり、信仰が勝利なのです。

信じるということ、しかもイエスがキリストであることを信じる信仰が、いかに大切であるかをイエス様は福音書の中で何度となく話しておられました。二人の盲人が、「ダビデの子よ。私たちをあわれんでください。」と叫んだら、イエス様が、「わたしにそれができると信じるのか」と尋ねられ、彼らは、「はい、主よ」と言いました。「マタ 9:29 そこでイエスは彼らの目にさわって、「あなたがたの信仰のとおりになれ。」と言われた。」そして、おことばを下さい、そうすればしもべは治る、と言った百人隊長に対して、「8:13 あなたの信じたとおりになるように。」と言いました。ツロとシドンの地方でイエス様が、女の娘が悪霊につかれている、あわれんでくださいと言われましたが、イエス様は、「15:28 女の方、あなたの信仰は立派です。あなたの願うとおりになるように。」と言われました。長血を患う女に対しては、「9:22 娘よ、しっかりしなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです。」と言われました。そして、高い山から降りてきたら、悪霊につかれている男の子がいて、弟子たちが悪霊を追い出せなかったことを聞いて、「ああ、不信仰な曲がった時代だ。」と言われました(17:17)。このように、イエス様は信じるところに力があることを語られています。

これらの人々に共通しているのは、「積極的に信じていた」ということです。その反面、弟子たちが悪霊を追い出せなかったのは、イエス様を信じていたけれども、消極的であったとも言えます。神がおできになると信じるだけでなく、今、この時に神がおられて、神は行ってくださる、行われていると信じていることです。能動的、躍動的な信仰なのです。自分が自由になりたいと願っていることについて、もがいていること、犯している罪について、「いつか神が自由にしてほしい」ではなく、「神は自由にしてくださった」と信じられているか？であります。この今の自分の問題についても、神は自由を与えられたと信じているか？であります。

イエス様は、世について弟子たちに、「世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました。」と言われました(ヨハ 16:33)。既に打ち勝ったと言われたのです。そして、パウロは、私たちはこれから十字架につけられるのではなく、すでに十字架につけられていることを話しました。「ガラ 2:19b 私はキリストとともに十字架につけられました。20 もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。今私が肉において生きているのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです。」自分自身が罪に対して死んでいるとみなしているかどうか？すでにキリストにある勝利を得ていることを信じられているかどうか？信じるには、自分を捨てないといけないですね。既に死んでいるとみなすには、自分にまわりついている罪をそのまま打ち落とす必要があります。

## 2A 信じる者 5

<sup>5</sup>世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。

### 1B 神の御子イエス

#### 1C 父のふところにおられる方

世に打ち勝つ信仰は、イエスを神の御子と信じる信仰であります。神の御子と信じるとは、神から来られた方、神と一つであられる方という意味合いが強いでしょう。「父のふところにおられるひとり子の神」とヨハネは福音書 1 章 18 節で言っています。

#### 2C 御父と御子の内にいる者

この父と子の関係の中に入れられたというのが、「神によって生まれた」という中にあるわけです。神の子どもになったというのは、三位一体の神にある交わりに入れられた、だから神が世から聖め別たれているように、私たちも世から聖め別たれることができている、ということであります。それはあたかも、水中を酸素ボンベをつけて潜水しているかのように、世の中には生きているのですが、しっかりと神のいのちにつながれて、それで生きることができているのです。

### 2B 信じる者にある勝利

#### 1C 悪い者を打ち破る方

イエス様は、ご自身で世に打ち勝ってくださいました。世の支配者である悪魔のわざを打ち破られました。先に読んだ第一ヨハネ 3 章 8 節ですが、その続きがこうなっています。「その悪魔のわざを打ち破るために、神の御子が現れました。」悪魔のわざを打ち破ってくださっているのです。イエス様が荒野で誘惑を受けられた時に、悪魔はこの方が神の子であるなら、ということで惑わしています。「あなたが神の子なら、これらの石がパンになるように命じなさい。」「あなたが神の子なら、下に身を投げなさい。」そういつて、ご自分の使命からかけ離れたことを行おせようとしたのです。けれども、この方はキリストであり、キリストは人の罪のために、そのいのちを代価としなければいけません。その誘いをすべて退けられました。

悪霊どもも、この方が神の子であることを知っていました。「マタ 8:29 神の子よ、私たちと何の関係があるのですか。まだその時ではないのに、もう私たちを苦しめに来たのですか。」そして主は十字架に付けられている時、神の子であれば、というそしりを受けました。「マタ 27:40 神殿を壊して三日で建てる人よ。もしおまえが神の子なら自分を救ってみろ。そして十字架から降りて来い。」こうして、神の子であるということで悪魔や悪霊ども、また闇の力が働いてそしている人々の言葉に、惑わしや中傷が浴びせられていたのです。しかし、悪魔のわざを打ち破りました。人々を罪の中に閉じ込め、滅びへと向かわしめるわざです。主はよみがえられて、確かに悪魔を打ち破り、公に神の御子であると現わされたのです(ロマ 1:4)。

## 2C 神のことばによる勝利

ですから、神から生まれたということによって、イエスを神の御子と信じる信仰によって世に打ち勝っています。そして、神のことばが留まることによって、成長し、罪に打ち勝つ生活を営むことができます。「2:14b 若者たち。私があなたがたに書いてきたのは、あなたがたが強い者であり、あなたがたのうちに神のことばがとどまり、悪い者に打ち勝ったからです。」若者とあるように、成長している姿を示しています。悪い者に打ち勝ったのだから、自分には神のことばが留まっていることによって、罪にも打ち勝つのだということです。神のことばによって、私たちの信仰は養われ、信仰が養われることによって、神の勝利が私たちのうちに実現します。

今は終わりの日です。世の終わりが近づいています。ですから、ますますこの方が神の御子であり、キリストであるという信仰が試され、また明らかにされてくる時です。その小さく見える信仰の種が、この荒れ狂う世に対して勝利を与えます。また自分の肉に対して、それは十字架の上につけられているとみなし、御霊の実を結ばせることができます。「詩 8:2 幼子たち乳飲み子たちの口を通してあなたは御力を打ち立てられました。あなたに敵対する者に応えるため復讐する敵を鎮めるために。」幼子のような信仰告白によって、敵対する者たちを鎮めることができます。